

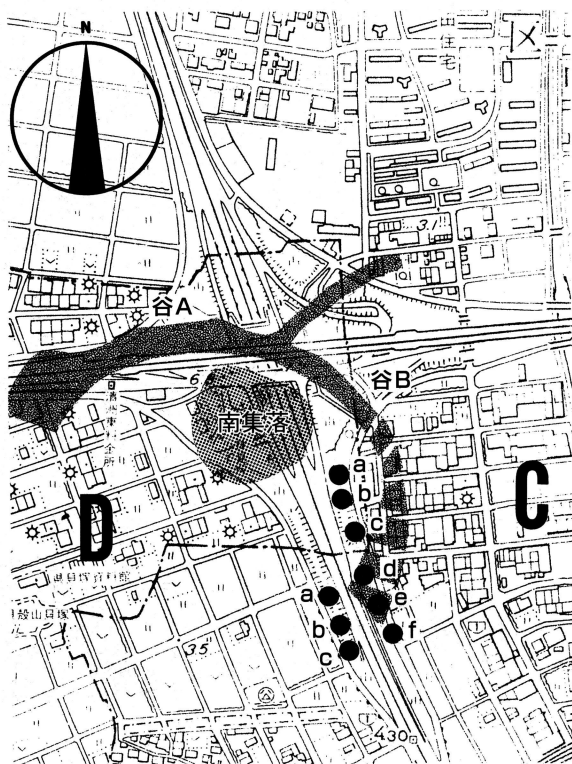
あさひ 朝日遺跡

調査の経過 朝日遺跡は西春日井郡清洲町を中心に、南北約1.1km、東西約800mにわたって広がる東海地方屈指の弥生時代集落である。今回の調査は名岐道路建設に伴う事前調査であり、名古屋高速道路公社より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、750㎡を平成10年12月～平成11年3月まで実施した。

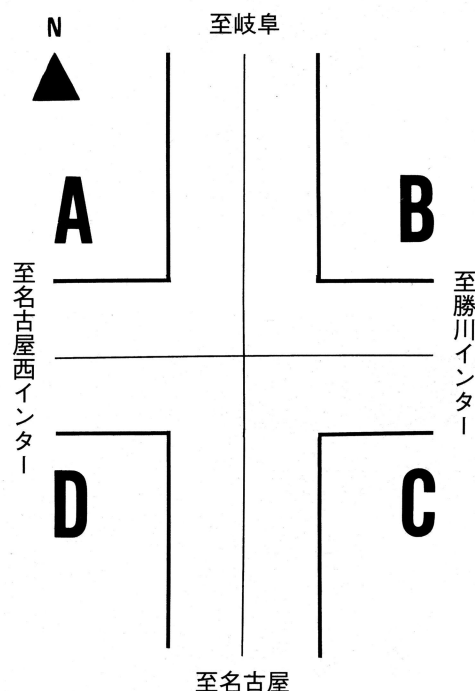
調査区の表 今後の朝日遺跡の調査では、道路の橋脚部分のみの調査が主体となり、100ヶ所近い調査記について 区が設定される。従来の本センターの調査区表記法である調査年度とアルファベットを組み合わせた表記法では、調査区数が上回り対応することができない可能性が考えられる。そこで、今回の名岐道路関連の朝日遺跡の調査に限定して、以下の通り、調査区の表記を行うこととする（第2図）。

- ①大調査区の設定…遺跡のほぼ中央を東西・南北に走る国道22号線・東名阪自動車道のセンターラインを利用し、大きくA～Dの4つの大調査区を設定する。
- ②小調査区の設定…この調査区が具体的な調査区となる。この小調査区はA～Dの大調査区の中で、調査した順番にアルファベットの小文字をふる。
- ③調査区の表記法…この大調査区と小調査区に従来の年度表記を組み合わせた形で調査区の表記を行う。（例：I A S <遺跡記号>98<年度>A<大調査区>a<小調査区>）
- ④道路センターライン上に設置される調査区については、アルファベットの早い大調査区に含める。

（服部信博）



第1図 調査区位置図（1：10,000）



第2図 大調査区割付図

調査の概要 平成10年度の調査地点は、これまでの朝日遺跡の調査成果により想定されている「南墓域」に南接する地域である。検出した遺構・遺物は稀薄であった。

基本層序は各調査区ともほぼ同じで、国道22号線の盛土下、標高2.9m前後に灰褐色粘土質シルトが堆積しており、以下20cm前後の層厚で黄褐色粘土、オリーブ黒色粘土、黒色粘土の各層が見られ、標高2.4m前後で地山層となる灰オリーブ色砂が堆積していた。各層には、腐食質の植物遺体が多く含まれていた。出土した遺物から3層は弥生時代後期～古墳時代、4層は弥生時代中期頃の包含層と考えられる。

Ce区では、長径約1mの楕円形のプランを呈し、斑状の埋土をもった土坑を1基検出した。最下層から加工を施したと思われる板状木材が1点出土した。検出状況から、これまで検出されている朝日遺跡の中世の方形土坑と同様の遺構と考えられる。また黒色粘土層下面から旧河道が検出された。埋土の堆積状況から、この旧河道は、北東から南西方向へやや蛇行しながら流れ、次第に北西方向へと流路を移動していったと考えられる。過去の調査で確認された「谷B」との関係を考慮しなければいけないであろう。

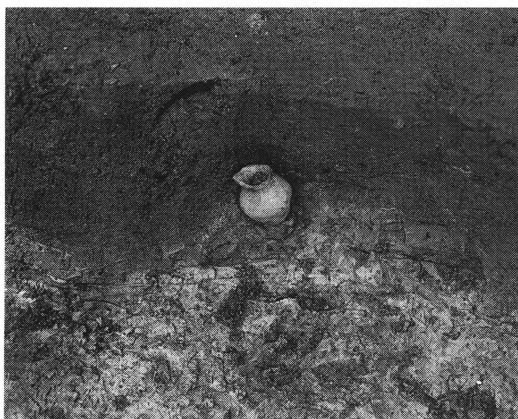
まとめ Cd～Cf区・Da～Dc区では、朝日遺跡の南墓域をしめす遺構は検出されなかったの
で、朝日遺跡の南限もこの付近に想定することができる。また遺跡の南東側には湿地状の
景観が展開していたと考えられる。
(春日井毅・飴谷 一・蔭山誠一)



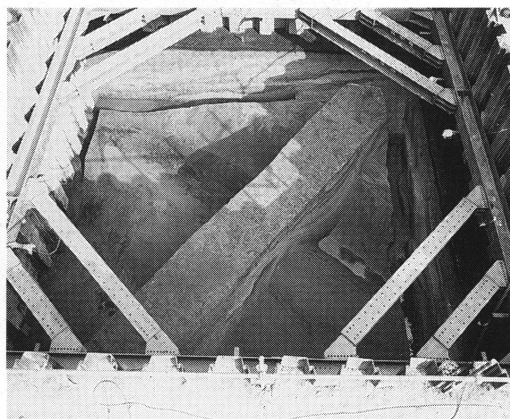
98Cd～Cf区 全景



98Ce区 中世土坑



98Ce区 遺物出土状況



98Ce区 旧河道